国語科学習指導案

４年２組　２７名　指導者　寺園　麻衣

本授業は，以下の検証を行うものである。
自分で「問い」をつくり，見通しをもちながら全体で共有し，全体で解決したい読みの「問い」を焦点化することは，物語を読んだ感想を進んで書こうとする国語科における「主体的に学習に取り組む態度」に着目した授業改善の手立てとして有効であったか。

１　単　元　　場面の様子をくらべて読み，感想を書こう（教材名「一つの花」）

２　目　標

登場人物の言動を表す言葉や繰り返し使われている言葉に着目し，場面の移り変わりと結び付けながら具体的に想像して読むことで，作品に込められた作者の思いについて考えたことを話し合ったり書いたりし，一人一人の感じ方の違いに気付くことができるようにする。

３　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○　言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 ○　作品に込められた作者の思いを想像するために，場面を比較しながら読んでいる。	○　「読むこと」において，登場人物の気持ちや性格などを叙述を基に捉え，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ○　「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方の違いに気付いている。	○　題名や場面の様子について「問い」をもち，場面の移り変わりと結び付けながら粘り強く読もうとしている。 ○　単元全体を通して，見通しをもちながら，作品にこめられた作者の思いについて考えを深め，伝え合おうとしている。

４　単元について

(1)　単元の位置とねらい

本単元は，「作品に込められた思いについて感想を書こう」という言語活動を設定することで，叙述を基に場面の様子を比べて読んで考えたことを話し合ったり書いたりし，一人一人の感じ方の違いに気付こうとする態度を身に付けることをねらいとしている。

教材「一つの花」は，登場人物の関係が大きく二つの場面から描かれており，対比の表現が組み込まれており，作品に込められた作者の思いについて，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しやすい物語である。また，時代設定，人物同士の関係，キーワードなどが捉えやすく，着目した観点に沿って作品を読んだ感想をまとめる言語活動に適している。

ここでの学習は，話し合って，人物や物語に対する考えを深める単元「気持ちの変化を読み，考えたことを話し合おう」（教材「ごんぎつね」）の学習につながるものである。

(2)　子供の実態

本学級の子供たちは，これまでの文学的文章の学習において，教材「ちいちゃんのかげおくり」では，場面を比べながら読み，物語に対する感想をまとめたり，教材「白いぼうし」では，人物や場面の様子を表す言葉，出来事に気を付けて，場面と場面のつながりを見付けたりする学習を経験してきている。一方，叙述を基に作品に込められた作者の思いを想像して読むことについては経験が少ない。

そこで本単元では，登場人物の言動を表す言葉や繰り返し使われている言葉に着目し，場面の移り変わりと結び付けながら具体的に想像して読むことで，作品に込められた作者の思いについて考えたことを話し合ったり書いたりし，一人一人の感じ方の違いに気付くことができるようにする。

(3)　指導上の留意点

導入では，「一つの花」を読み，おおまかな内容を捉えた後，子供一人一人が物語に対する「問い」をもつことで，その後の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。その際，「問い」づくりの条件や「問い」づくりの視点（単元名・題名や登場人物など）を提示し，子供の出した個々の「問い」を整理・比較・分類したり，関連付けたりすることで，価値ある「問い」をつくることができるようにする。展開では，子供たちの「問い」を基にして物語を読んでいくことで，作品に込められた作者の思いを想像することができるようにする。その際，発達の段階に応じた思考方法を活用しながら「対話」することで，自分の考えを広げることができるようにする。終末では，友達と作品に込められた作者の思いについて考えたことを話し合うことで，一人一人の

感じ方の違いに気付くことができるようにする。そして，作品に込められた作者の思いについての多様な見方に触れることで，自分の考えをまとめることができるようにする。その際，教児で共有できる「ルーブリック」を提示することで，子供がまとめた自分の考えを主体的に評価することができるようにする。なお，一単位時間や単元の終末においては，「振り返りの三つの視点」や「主体的に学習に取り組む態度」に着目した振り返りをすることで，自らの学びを自覚化し，次の学びへの意欲が高まるようにする。

５　指導計画（総時数８時間）

過程	学　習　活　動	時間
課題をつかむ	１　モデル文を読み，単元全体の見通しをもつ。 ２　「一つの花」を読み，物語の設定を捉える。 ３　単元全体のめあてを確認し，「問い」をつくる。 ４　学級全体で解決したい「問い」について話し合い，学習計画表を完成する。 作品に込められた作者の思いについて，自分が考えたことを友達に分かりやすく伝えるには，どのように読めばよいのだろうか。	１ ０．５ ０．５ １ (本時)
情報を読み取る 情報を基に考える	５　「ゆみ子が覚えた最初の言葉」の場面における，登場人物の言動を表す言葉や繰り返し使われている言葉について考える。 ６　「父の出征」の場面における登場人物の言動を表す言葉や繰り返し使われている言葉について考える。 ７　戦争中と１０年後の戦争後の場面を比べて，繰り返し使われている言葉や題名について考える。 ・　登場人物の様子や行動，会話に気を付けて読んだり，場面の様子を比べて読んだりするとよい。 ・　作品に込められた作者の思いについて自分の考えをまとめたり伝えたりするには，題名や繰り返し用いられる言葉に着目しながら読むとよい。	１ １ １
主体的に表現する	８　作品に込められた作者の思いについて自分の考えを感想カードにまとめる。 ９　友達と感想カードを読み合い，互いの考えを共有し，単元の学習を振り返る。	１ １

６　本　時（３／８）

(1)　目　標

物語を読んで，考えたことを共有するための「問い」を話し合うことができるようにする。

(2)　評価規準

○　「読むこと」において，共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について捉えることで，文章を読んで感じたことを共有している。【思考・判断・表現】

○　教材文の題名や場面の様子，繰り返しの表現などについて着目して「問い」をもち，見通しをもって読もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3)　指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では，前時までに学習した物語の設定や，これまでの既習事項を確認することで，本時のめあて（「問い」）につなげることができるようにする。また，「問い」の視点を提示することで，主体的に物語を読もうとする意欲を高め，学習の見通しをもつことができるようにする。

「調べる過程」では，「問い」の一覧と全文シートを基に，単元名や「問い」づくりの視点を結び付けながら読むことで，作品に込められた作者の思いを想像しながら主体的に読むための「問い」を焦点化することができるようにする。また，クラゲ図を用いて考えを整理することで，根拠となる叙述を明確にしながら「問い」に対する自分の考えを広げることができるようにする。そして，グループで「対話」する際，発達の段階に応じた思考方法を活用しながら話し合うことで，自分の考えを広げることができるようにする。さらに，自分と友達の考えを比較したり，関連付けたりすることで，「問い」に対する自分の考えを再構築することができるようにする。

「まとめる・生かす」過程では，本時の学習を基に，学習計画を立てることで，単元全体の見通しをもつことができるようにする。また，本時の学習で活用した読み方について確認することで，物語に対する汎用的な読みの力を身に付けることができるようにする。そして，「振り返りの三つの視点」や「主体的に学習に取り組む態度」に着目しながら本時の学びを振り返ることで，本時の学びを自覚化し，次時の学びへ意欲を高めることができるようにする。

(4)　本時の展開　　〔　〕　子供の意識　　○　指導の手立て　　※　評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	4	1　前時までの学習を振り返る。 ・　友達は，どのような「問い」をもったのかな。知りたいな。 2　本時のめあてを確認する。 作品に込められた作者の思いを考えるためには，どのような「問い」にするとよいだろうか。 3　教師の補説を聞き，教材文を読む。 ・　「問い」を選ぶ時は，「問い」づくりの条件を基にして話し合うとよいのだな。 ・　「問い」同士を比べたりまとめたりするとよさそうだな。 4　教材文と「問い」の一覧を基に，どの「問い」にするとよいか，話し合う。 (1)　単元名，題名を視点に話し合う。 ・　「一つの花」と書いてあるけれど，どうして「一本」ではないのだろうか。 ・　作者の思いを考えるためには，どのように読むとよいのだろうか。 (2)　登場人物を視点に話し合う。 ・　お母さんが，「なんでももらえるのね。」と言ったのはどうしてなのだろうか。 ・　お父さんがコスモスの花をゆみ子に渡したのはなぜなのだろうか。 (3)　表現・構成その他気になるところを視点に話し合う。 ・　繰り返し「一つ」という言葉が出てきているのはどうしてなのだろうか。 ・　「一つ」という言葉が，戦争後の場面には出てきないのはどうしてなのだろうか。 5　本時の学習で活用した読み方や「問い」のもち方についてまとめる。 作品に込められた作者の思いを考えるためには， ・　登場人物の言動 ・　繰り返し出てくる表現 ・　場面の様子を比べる などに，注目して単元名や題名に，つながる「問い」にするとよい。 6　共有した「問い」を基に，学習計画を完成させる。 7　本時の学習の振り返りをする。 ・　「白いぼうし」の時より，「問い」の選び方が分かってきたよ。 ・　「問い」を解決しながら読んで，自分の考えを伝えたり，みんなの考えを聞いたりするのが楽しみだな。	○　前時までの学習を振り返り，本時の学習につなげることで，見通しをもって本時の学習に取り組むことができるようにする。 ○　「問い」づくりの条件を提示することで，「問い」を選ぶ条件を全体で共有することができるようにする。 ○　「問い」の一覧と全文シートを活用することで，「問い」と叙述を照応しながら確認できるようにする。 ○　発達の段階に応じた思考方法を活用することで，自分の考えを広げることができるようにする。 **○　出された「問い」について，「単元名・題名」「登場人物」「表現・構成」を視点に，比較・分類，関連付けをしながら「問い」を焦点化することで，読んで考えたことを，共有するための「問い」を話し合うことができるようにする。** ※　「読むこと」において，比較したり分類したりしながら，情報を整理することで，文章を読んで感じたことを共有している。 （活動の様子）【思考・判断・表現】 ※　教材文の題名や場面の様子，登場人物の言動，表現・構成などに着目して「問い」をもち，見通しをもって読もうとしている。（活動の様子・ノート） 【主体的に学習に取り組む態度】 ○　本時の学習で活用した読み方や「問い」のもち方についてまとめることで，物語に対する汎用的な読みの力を身に付けると共に，今後の読書生活につなぐことができるようにする。 ○　前時までに提示した学習計画を完成させることで，単元全体の見通しをもつことができるようにする。 ○　「学習内容」「学習活動」「次時への意欲や見通し」の三つの視点から本時の学びを振り返ることで，本時の学びを自覚化し，次時の学びへ意欲を高めることができるようにする。
調べる	２５		
まとめる・生かす	１６		